

## 交通安全誓いの日 校長講話要旨 2020.06.05

今年度、1年生から3年生まで揃った最初の全校集会在、こうして屋外で、さらに重たい内容になりますが、とても大切なお話をします。

今から5年前、平成27年（2015年）6月6日土曜日の夜、砂川市内で飲酒運転による交通事故が発生し、被害にあった家族5人のうち4人が死亡、1人が重体となりました。死亡した4人は、当時砂川高校の3年生永桶恵さんと1年生の永桶昇太さん、そして、そのお父さんとお母さんでした。重いけがを負った当時中学生だった妹さんは、今の高校3年生と同じ年齢になっています。

事故発生から5日後の6月11日に告別式が行われ、火葬場へ向かう途中に、3年生の恵さんと1年生の昇太さんのご遺体を乗せた霊柩車が2台、静かに生徒玄関前に停まりました。全校生徒が歩道に沿って整列し、手を合わせて、2人を見送り、最期のお別れをしました。高校生活の途中で、突然人生を閉ざされた友人の無念を思い、君たちの先輩は深い悲しみのなかで、飲酒運転は絶対に無くさなければならないと誓いを立てました。

あれから毎年、私たちはこの日が来ると、飲酒運転撲滅を訴え、国道12号線で旗の波運動を行ってきました。また、全道全国から飲酒運転事故への悲しみを共有する方が本校に駆けつけてくれて、講演会も開いてきました。

しかし、今年は新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、このように縮小した内容で終了します。先ほど皆さんと共に捧げた黙祷には、2人の姉弟への哀悼と、飲酒運転がこの世からなくなる祈りが込められています。やがて皆さんの多くは車を運転する日がくるでしょう。その時に、今日の祈りが飲酒運転撲滅への具体的な形となって実践されます。

そしてもうひとつ大切なこと、交通事故は飲酒運転だけが原因ではない。ここにいる全員が交通安全への意識を新たにし、命の大切さを心から思える人間になる。これが、砂川高校の「交通安全誓いの日」です。